

干し柿同好会

干し柿づくりで楽しみながら、地域の景観の向上



目的

- 柿の木の管理(施肥・剪定・摘果)と収穫及び加工のプロセスを多くの人たちと楽しみながら行うことにより、**地域のまちづくり活動**としてその輪を広げてゆく。
- 旧来の柿の実の**保存技術の伝承**を図る。
- 放置された樹木を選定し、**地域街路の景観をより美しく保存**する。

現状

- 町内の各家庭に柿の木はあるものの、放置されむなしく鳥の餌と化している物が多く見受けられ、渋柿ほどこの傾向が強く感じられる。この**渋柿の木を社会資源**とみなして、通常の手入れを行い充実した実を収穫し、干し柿をつくる。

活動

- ① コロナの影響により近所同士で活動
- ② 長野県より吊るし道具、吊るし金具の導入
- ③ 長雨により害虫と病気が増え、花が落ち実が成らず非常に不作の年となった。



挿し木



収穫



自作皮むき器



たい肥作り



振返り課題

- 令和2年度のファンド資金により必要道具・材料が揃えられたので、令和3年度には対人関係のPRと害虫・病害対策に重点を置き、会の運営を行う。
- 地域の景観の向上**について：見知らぬ家の柿の木を管理するためには、持ち主との信頼関係を良好に保つことが重要となる。このコロナ下においては飛び込み活動ではなく、会員や知人のつてをたどり一人でも多くの方々に当会の活動を知ってもらうべく広報活動に努める。
- 干し柿生産について：ポイントは①最適な生柿の生産②干す方法。①は柿農家からアドバイスを受け実行していく。②は今年度のやり方でほぼうまくいった。
- 長期保存方法について：冷凍保存が最適だが、次年度は常温保存のテストをして行く。
- 菓子製造について：出来上がった干し柿に砂糖をまぶしただけでも保健所の管轄になる。なので菓子を売るということよりも、おいしい菓子を作るということに焦点を絞る。
- 会の存続と活動拡大には資金が必要。出来た干し柿を売って資金に充てる。知人友人に売るには限度がある、ネット販売を考えているが、包装・郵送方法についてプロの知恵を借りる必要がある。